京都エビデンス精神医療研究会　発表履歴

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 回 | 日程 | 症例発表 | 批判的吟味 |
| 1 |  | 古川　壽亮  『なぜEBMが重要なのか』  小椋　哲（宇治おうばく病院） | — |
| 2 | 2012/1/26 | 川島　啓嗣（公立豊岡病院） | 小椋　哲（宇治おうばく病院）  P： 短期精神病性障害患者において  E： 急性期寛解後も抗精神病薬の投与を継続すると  C： 中止するのに比して  O： 再燃が減少するか  Guided discontinuation versus maintenance treatment in remitted first-episode psychosis: relapse rates and functional outcome.  J Clin Psychiatry. 2007 May;68(5):654-61. |
| 3 | 2012/4/26 | 田近　亜蘭（京都大学） | 川島　啓嗣（公立豊岡病院）  P： ECT後のうつ病患者において  E： 維持薬物療法は  C： プラセボに比して  O： 再発を抑制するか  Continuation pharmacotherapy in the prevention of relapse following electroconvulsive therapy: a randomized controlled trial.  JAMA. 2001 Mar 14;285(10):1299-307. |
| 4 | 2012/6/28 | 挾間　雅章（京都大学） | 田近　亜蘭（京都大学）  P：　双極性障害患者において  E：　オランザピンを長期に服用した場合は  C：　そうでない場合に比して  O：　再発を抑制するか  Olanzapine in the long-term treatment of bipolar disorder: a systematic review and meta-analysis.  J Psychopharmacol. 2010 Dec;24(12):1729-38. |
| 5 | 2012/7/24  （特別講演） | 『双極性障害の薬物療法についてのエビデンスアップデート』  　本屋敷　美奈　　京都大学大学院医学研究科　健康増進・行動学分野  『診断に関する論文の読み方』  　古川　壽亮　　京都大学大学院医学研究科　健康増進・行動学分野 | |
| 6 | 2012/9/20 | 竹島　望（京都大学） | 挾間　雅章（京都大学）  P：　抗うつ薬にリチウムを追加して寛解したうつ病患者において  E：　抗うつ薬とリチウムの併用療法は  C：　いずれかの単剤治療と比して  O：　寛解維持率は高いか  Double-blind, placebo-controlled trial of the use of lithium to augment antidepressant medication in continuation treatment of unipolar major depression.  Am J Psychiatry. 2000 Sep;157(9):1429-35. |
| 7 | 2012/11/27 | 青木　宣篤（関西医科大学） | 竹島　望（京都大学）  P：　境界性パーソナリティー障害患者において  E：　アウトリーチがある場合は  C：　ない場合に比して  O：　自殺・自傷行為を抑制するか  Effect of telephone contact on further suicide attempts in patients discharged from an emergency department: randomised controlled study.  BMJ. 2006 May 27;332(7552):1241-5. |
| 8 | 2013/1/10 | Alessandro Pompoli（Verona大学） | 青木　宣篤（関西医科大学）  P：　治療抵抗性統合失調症患者において  E：　クロザピンは  C：　その他の抗精神病薬に比して  O：　治療反応性が良いか  Randomized controlled trial of effect of prescription of clozapine versus other second-generation antipsychotic drugs in resistant schizophrenia.  Schizophr Bull. 2006 Oct;32(4):715-23. |
| 9 | 2013/3/14 | 東　徹（岩倉病院） | Alessandro Pompoli（Verona大学）  P：　せん妄患者において  E：　リスペリドン、オランザピンは  C：　ハロペリドールに比して  O：　治療反応性が良いか  Comparative efficacy study of haloperidol, olanzapine and risperidone in delirium.  J Psychosom Res. 2011 Oct;71(4):277-81. |
| 10 | 2013/5/16 | 越川　陽介（関西医科大学） | 東　徹（岩倉病院）  P：　リスペリドン投与中の統合失調症患者において  E：　パリペリドン徐放剤に変薬することは  C：　リスペリドンを継続することに比して  O：　錐体外路症状が少ないか  Paliperidone ER versus risperidone for neurocognitive function in patients with schizophrenia: a randomized, open-label, controlled trial.  Int Clin Psychopharmacol. 2012 Sep;27(5):267-74. |
| 11 | 2013/7/11  （特別講演） | 『大うつ病エピソードの何割が隠れ双極性か、そして見分けることが出来るか：文献レビュー』  　田近　亜蘭　　京都大学大学院医学研究科　健康増進・行動学分野  『エビデンスを上手に探すために』  　渡辺　範雄　　国立精神・神経医療研究センター　トランスレーション・メディカルセンター | |
| 12 | 2013/9/12 | 早坂　佑（京都大学） | 越川　陽介（関西医科大学）  P：　ADHD患者において  E：　家族療法を行うことは  C：　行わない場合に比して  O：　問題行動の頻度は減るか  A new mother-child play activity program to decrease parenting stress and improve child cognitive abilities: a cluster randomized controlled trial.  PLoS One. 2012;7(7):e38238. |
| 13 | 2013/11/14 | 谷尾　具子（宇治おうばく病院） | 早坂　佑（京都大学）  P： オランザピン・クエチアピンで治療中の口渇・多飲の　ある患者において  E：　薬物療法または非薬物療法を行うことは  C：　プラセボを服用することに比して  O：　口渇は改善するか  Interventions for the management of dry mouth: non-pharmacological interventions.  Cochrane Database Syst Rev. 2013 Sep 5;9:CD009603. |
| 14 | 2014/1/16 | 中神　由香子（京都大学） | 谷尾　具子（宇治おうばく病院）  P：　慢性期の双極性障害患者において  E：　抗精神病薬に加えて気分安定薬を服用することは  C：　抗精神病薬のみを服用することに比して  O：　再発は少なくなるか  Maintenance treatment for patients with bipolar I disorder: results from a north american study of quetiapine in combination with lithium or divalproex (trial 127).  Am J Psychiatry. 2009 Apr;166(4):476-88. |
| 15 | 2014/3/20 | 宋　龍平（岡山県精神科医療センター） | 中神　由香子（京都大学）  P：　強迫症状を有する統合失調症患者において  E：　オランザピンを服用することは  C：　他の抗精神病薬を服用することに比して  O：　強迫症状は改善するか  Second-generation antipsychotics for obsessive compulsive disorder.  Cochrane Database Syst Rev. 2010 Dec 8;(12):CD008141. |
| 16 | 2014/5/15 | 山本　彬（滋賀医科大学） | 宋　龍平（岡山県精神科医療センター）  P：　寛解した短期精神病性障害患者において  E：　抗精神病薬を継続することは  C：　抗精神病薬を中断することに比して  O：　再発までの期間はどれぐらいか  Maintenance treatment with quetiapine versus discontinuation after one year of treatment in patients with remitted first episode psychosis: randomised controlled trial.  BMJ. 2010 Aug 19;341:c4024. |
| 17 | 2014/7/10  （特別講演） | 『躁状態の薬物療法：単剤治療か併用療法か』  　小川　雄右　　京都大学大学院医学研究科　健康増進・行動学分野  『統合失調症の維持期治療：エビデンスと仮説』  　内田　裕之　　慶応義塾大学医学部 精神・神経科学教室 | |
| 18 | 2014/9/18 | 西嶋　泰洋（京都大学） | 山本　彬（滋賀医科大学）  P：　クロザピン抵抗性の統合失調症患者において  E：　クロザピン以外の薬剤を併用することは  C：　クロザピン単剤に比して  O：　デイケアに通えるようになるか  Pharmacological augmentation strategies for schizophrenia patients with insufficient response to clozapine: a quantitative literature review.  Schizophr Bull. 2012 Sep;38(5):1003-11. |
| 19 | 2014/11/27 | 柴田　真美（京都大学） | 西嶋　泰洋（京都大学）  P：　双極性障害患者において  E：　炭酸リチウムの単剤治療を行うことは  C：　炭酸リチウムとバルプロ酸を併用することに比して  O：　再発率が下がるか  Lithium plus valproate combination therapy versus monotherapy for relapse prevention in bipolar I disorder (BALANCE): a randomised open-label trial.  Lancet. 2010 Jan 30;375(9712):385-95. |
| 20 | 2015/1/15 | 中谷　素子（パナソニック） | 柴田　真美（京都大学）  P：　精神病症状を伴ううつ病患者において  E：　抗うつ薬と抗精神病薬の併用療法は  C：　抗うつ薬単剤療法に比して  O：　症状が改善する割合が多いか  Pharmacological treatment for psychotic depression.  Cochrane Database Syst Rev. 2013 Nov 26;11:CD004044. |
| 21 | 2015/3/19 | 別所　和典（岡山県精神科医療センター） | 中谷　素子（パナソニック）  P：　多量飲酒のあるうつ病患者において  E：　認知行動療法や動機付け面接の指導をすることは  C：　一般的な治療に比して  O：　うつ症状または飲酒が改善するか  Treatment of comorbid alcohol use disorders and depression with cognitive-behavioural therapy and motivational interviewing: a meta-analysis.  Addiction. 2014 Mar;109(3):394-406. |
| 22 | 2015/5/21 | 杉原　玄一（京都大学） | 別所　和典（岡山県精神科医療センター）  P：　うつ病の診断基準を満たすアルコール依存症患者において  E：　断酒を継続することは  C：　断酒をしない場合に比して  O：　うつ病の再発率が低下するか  Alcohol use disorders and the course of depressive and anxiety disorders.  Br J Psychiatry. 2012 Jun;200(6):476-84. |
| 23 | 2015/7/30  （特別講演） | 『精神科における向精神薬処方の適正化と安全性の向上を目指して：病棟薬剤師の役割』  　重面　雄紀　　京都大学医学部附属病院　薬剤部  『うつ病の個別化治療の可能性：標準化と個別化のクロストーク』  　加藤　正樹　　関西医科大学精神神経科学教室 | |
| 24 | 2015/9/17 | 日下　慶子（認定NPO法人 心の架け橋いわて） | 杉原　玄一（京都大学）  P：　思春期において  E：　親の自殺を経験した場合は  C：　親の自殺を経験していない場合に比して  O：　自殺のリスクがどれぐらい高まるか  Psychiatric morbidity, violent crime, and suicide among children and adolescents exposed to parental death.  J Am Acad Child Adolesc Psychiatry. 2010 May;49(5):514-23. |
| 25 | 2015/11/19 | 田中　英三郎（兵庫県こころのケアセンター） | 日下　慶子（認定NPO法人 心の架け橋いわて）  P：　幻覚妄想・精神運動興奮を呈した患者において  E：　外来治療に切り替えた場合は  C：　入院治療を継続する場合に比して  O：　早期の再燃率が高いか  Length of hospitalisation for people with severe mental illness.  Cochrane Database Syst Rev. 2014 Jan 30;1:CD000384. |
| 26 | 2016/1/21 | 植野　仙経（洛南病院） | 田中　英三郎（兵庫県こころのケアセンター）  P：　一般人口において  E：　トラウマ体験を有する場合は  C：　トラウマ体験がない場合に比して  O：　双極Ⅱ型障害の発症リスクが増加するか  Sociodemographic and psychopathologic predictors of first incidence of DSM-IV substance use, mood and anxiety disorders: results from the Wave 2 National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions.  Mol Psychiatry. 2009 Nov;14(11):1051-66. |
| 27 | 2016/3/17 | 嶽北　佳輝（関西医科大学/ ボローニャ大学） | 植野　仙経（洛南病院）  P：　慢性統合失調症患者において  E：　アリピプラゾールに切り替えた場合は  C：　リスペリドンを継続することに比して  O：　精神症状・臨床状態の悪化（再発）をきたすか  Aripiprazole versus other atypical antipsychotics for schizophrenia.  Cochrane Database Syst Rev. 2014 Jan 2;1:CD006569. |
| 28 | 2016/5/19 | 東　徹（岩倉病院） | 嶽北　佳輝（関西医科大学）  P：　日本人（またはアジア人）統合失調症患者において  E：　アセナピンを用いた場合は  C：　他の第2世代抗精神病薬と比較して  O：　有効性および忍容性に違いはあるか  Efficacy and safety of asenapine in Asian patients with an acute exacerbation of schizophrenia: a multicentre, randomized, double-blind, 6-week, placebo-controlled study.  Psychopharmacology. 2016 Jul;233(14):2663-74. |
| 29 | 2016/7/28  （特別講演） | 『アセナピン承認申請コンセプト』  　Meiji Seikaファルマ（株）　臨床開発企画部  『アセナピンの使用方法を考える  　　　–本邦統合失調症患者を対象とした臨床試験の結果から–』  　嶽北　佳輝　　関西医科大学精神神経科学教室  『急性精神疾患のEBMを目指した臨床研究』  　八田　耕太郎　順天堂大学医学部附属練馬病院　メンタルクリニック | |
| 30 | 2016/9/15 | 福本　裕美（宇治おうばく病院） | 東　徹（岩倉病院）  P：　うつ病患者において  E：　ミルタザピンは  C：　他の抗うつ薬と比較して  O：　自殺リスクが高いか  CLINICAL REVIEW: RELATIONSHIP BETWEEN ANTIDEPRESSANT DRUGS AND SUICIDALITY IN ADULTS http://www.fda.gov/ohrms/dockets/ac/06/briefing/2006-4272b1-01-FDA.pdf |
| 31 | 2016/12/2 | 武内　正美（岩倉病院） | 福本　裕美（宇治おうばく病院）  P：　双極性うつ病患者において  E：　オランザピン（＋気分安定薬）は  C：　他の抗精神病薬または抗うつ薬（＋気分安定薬）と　比較して  O：　寛解率が高いか  Comparative efficacy and acceptability of drug treatments for bipolar depression: a multiple-treatments meta-analysis.  Acta Psychiatr Scand. 2014 Dec;130(6):452-69. |
| 32 | 2017/2/2 | 村田　繁紀（宇治おうばく病院） | 武内　正美（岩倉病院）  P:　クロザピン抵抗性統合失調症患者において  E:　クロザピンとECTの併用療法は  C:　クロザピン単独療法と比較して  O:　陽性症状を改善するか  Electroconvulsive therapy augmentation in clozapine-resistant schizophrenia: a prospective, randomized study.  Am J Psychiatry. 2015 Jan;172(1):52-8. |
| 33 | 2017/3/16 | トウ　ソウ（京都大学） | 村田　繁紀（宇治おうばく病院）  P:　悪性症候群の患者において  E:　ダントロレンを投与する場合は  C:　ダントロレンを投与しない場合と比較して  O:　死亡率が改善するか  Managing an effective treatment for neuroleptic malignant syndrome.  Crit Care. 2007;11(1):R4. |
| 34 | 2017/5/18 | 戸瀬　景茉（京都大学） | トウ　ソウ（京都大学）  P:　患者において  E:　プラセボを投与することは  C:　何もしないことと比較して  O:　効果はあるか  Placebo interventions for all clinical conditions. [Cochrane Database Syst Rev.](https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/20091554) 2010 Jan 20;(1):CD003974. |
| 35 | 2017/7/13  （特別講演） | 『エビデンス医療のこれから』  　古川　壽亮　　京都大学大学院医学研究科　健康増進・行動学分野  『うつ病研究の将来展望』  　樋口　輝彦　　一般社団法人日本うつ病センター | |
| 36 | 2017/9/21 | 緒方　治彦（関西医科大学） | 戸瀬　景茉（京都大学）  P:　抗うつ剤単剤では効果が明確でないうつ病患者において  E:　リチウムを追加した場合は  C:　リチウムを追加しない場合と比較して  O:　治療反応性は高まるか  Placebo-controlled trial of lithium augmentation of fluoxetine and lofepramine.  Br J Psychiatry. 1995 Jan;166(1):80-6 |
| 37 | 2017/11/16 | レクチャー  『RCTの批判的吟味のチェックポイントを基礎から理解する』 | 緒方　治彦（関西医科大学）  P:　うつ病患者において  E:　認知行動療法を実施することは  C:　認知行動療法を実施しない場合と比較して  O:　治療効果が向上するか  Effectiveness of Supplementary Cognitive-Behavioral Therapy for Pharmacotherapy-Resistant Depression: A Randomized Controlled Trial.  J Clin Psychiatry. 2017 Sep/Oct;78(8):1126-1135. |
| 38 | 2018/1/18 | 徳田　裕志（高田馬場診療所） | レクチャー  『MeSHとClinical Queriesを使って要領よくPubMed検索しよう』 |
| 39 | 2018/3/22 | 角　幸頼（滋賀医科大学） | 徳田　裕志（高田馬場診療所）  P:　統合失調症ハイリスクと考えられる小児において  E:　抗精神病薬を投与することは  C:　投与しない場合と比較して  O:　予後はどうなるか Randomized controlled trial of interventions for young people at ultra-high risk of psychosis: twelve-month outcome. J Clin Psychiatry. 2013 Apr;74(4):349-56. |
| 40 | 2018/5/31 | レクチャー  『RCTの批判的吟味のチェックポイントを基礎から理解する』 | 角　幸頼（滋賀医科大学）  P:　抑うつ状態の自己免疫性疾患患者において  E:　抗うつ薬を投与することは  C:　投与しない場合と比較して  O:　抑うつ指標は改善するか  Paroxetine versus amitriptyline for treatment of depression associated with rheumatoid arthritis: a randomized, double blind, parallel group study.  J Rheumatol. 2000 Dec;27(12):2791-7 |
| 41 | 2018/7/19 | 松田　崇之（京都大学） | レクチャー  『MeSHとClinical Queriesを使って要領よくPubMed検索しよう』 |
| 42 | 2018/9/27 | 坂野　泰子（京都大学） | 松田　崇之（京都大学）  P:　 服薬コンプライアンス不良の統合失調症患者において  E:　 LAIを使うことは  C:　 内服薬と比較して  O:　 脱落者が少ないだろうか Safety and tolerability of long-acting injectable versus oral antipsychotics: A meta-analysis of randomized controlled studies comparing the same antipsychotics.Schizophr Res.2016 Oct;176(2-3):220-230 |
| 43 | 2018/11/22 | レクチャー  『古川先生の論文を批判的吟味しながらRCTのチェックポイントを基礎から理解しよう』 | 坂野　泰子（京都大学）  P: 双極性障害・うつ病エピソードの患者において  E: ECTは  C: 薬物療法と比較して  O: うつ病エピソード改善に効果があるだろうか  Treatment-Resistant Bipolar Depression: A Randomized Controlled Trial of Electroconvulsive Therapy Versus Algorithm-Based Pharmacological Treatment  Am J Psychiatry. 2015 Jan;172(1):41-51 |
| 44 | 2019/1/17 | 西嶋 佑太朗（京都大学） | レクチャー  『システマティックレビューの批判的吟味のチェックポイントを基礎から理解する』 |
| 45 | 2019/3/28 | 西嶋 佑太朗（京都大学）  P: クロザピンの効果が限定的である治療抵抗性統合失調症患者において  E: クロザピンと他の抗精神病薬の併用療法は  C: クロザピン単剤療法と比較して  O: 陽性症状や陰性症状の改善に効果があるか Adjunctive second-generation antipsychotics for specific symptom domains of schizophrenia resistant to clozapine: A meta-analysis.J Psychiatr Res.2019 Jan;108:24-33 | 宮田 淳（京都大学）  「メタ認知トレーニングの効果のメタ解析：４つのメタ解析の食い違いとその解釈」 |
| 46 | 2019/5/17 | 岡林　亜紀（京都大学） | レクチャー  『臨床疑問を解決するには』  『MeSHとClinical Queriesを使って要領よくPubMed検索しよう』 |
| 47 | 2019/7/18 | レクチャー  『RCTの批判的吟味のチェックポイントを基礎から理解する』 | 岡林　亜紀（京都大学）  P: 単極性精神病性うつ病の患者において  E: エスシタロプラムとオランザピンの併用療法は  C: エスシタロプラム単剤での治療と比較して  O: うつ症状の改善が見込めるだろうか  Treatment of unipolar psychotic depression: a randomized, double-blind study comparingimipramine, venlafaxine, and venlafaxine plus quetiapine.  Acta Psychiatr Scand. 2010 Mar;121(3):190-200 |
| 48 | 2019/9/5 | 坂田　昌嗣（京都大学） | レクチャー  『システマティックレビューの批判的吟味のチェックポイントを基礎から理解する』 |
| 49 |  | 森本　佳奈（京都市児童福祉センター） | 坂田　昌嗣（京都大学）  P: ADHDの小学校低学年児童において  E: 親・教師への介入を行うことは  C: それを行わない場合と比較して  O: 授業中のチャレンジング行動が減るだろうか  The pharmacological and non-pharmacological treatment of attention deficit hyperactivity disorder in children and adolescents: A systematic review with network meta-analyses of randomised trials.  PLoS One. 2017 Jul 12;12(7):e0180355. |